厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

急性心筋梗塞患者における心房細動合併の予後への影響に関する研究

研究分担者	奥村　謙	弘前大学大学院医学研究科	循環呼吸腎臓内科学	教　授
	花田　裕之	弘前大学大学院医学研究科	救急・災害医学	准教授
	樋熊　拓未	弘前大学大学院医学研究科	心臓血管病先進治療学	准教授

【研究要旨】 急性心筋梗塞患者において、急性期の心房細動合併の有無が短期および長期予後にどのように影響するかを検討した。

A. 研究目的

心房細動(AF)は急性心筋梗塞(AMI)患者において最もよくみられる上室性不整脈の一つであるが、早期再灌流療法として直性的経皮的冠動脈インターベンション(Primary PCI)が広く行われるようになった現在において、AF の予後への影響については未だあまり検討されていない。

B. 研究方法

発症から 48 時間以内に当院へ搬送され、primary PCI が施行された AMI 患者 694 例を対象とした。入院時または入院中の AF 合併の有無が院内イベント(死亡、心不全、心原性ショック、心室頻拍/心室細動、脳卒中、入院期間)および長期の全原因死亡にどのように影響するか調べた。

（倫理面への配慮）
弘前大学大学院医学研究科倫理委員会に報告し、承認済である。

C. 研究結果

89 例(12.8%)で AF を認めた。AF 合併例は有意に高齢、高心拍数、低左室駆出率、低腎機能であり、最大 CPK 値が高値で最終造影における TIMI グレード 3 が少なかった。また AF 合併例では、入院中の心不全、心原性ショック、心室頻拍/細動が増加し院内死亡率も有意に高かったが、ロジスティク回帰分析においては、AF 合併と院内死亡には有意な関連は認めなかった。長期予後では、生存時間分析において AF 合併例は有意に死亡率が高かったが、Cox 回帰分析においては、AF 合併は独立した危険因子とならなかった。

D. 考察

これまで行われてきた、AMI 患者における AF 合併の予後への影響に関する研究のほとんどは早期再灌流療法が普及する以前のものであった。本研究は、Primary PCI 時代において、AF 合併の長期予後への影響を検討した最初の研究である。Primary PCI による早期再灌流療法に加え、ACE 阻害薬、β遮断薬等の適切な治療が十分に行われることによって、AMI 患者における AF 合併の予後への影響は小さくなってきているものと考えられる。

E. 結論

Primary PCI 時代において、AF の合併は AMI 患者の急性期合併症や院内死亡、長期死亡に関係したが、多変量解析においては院内死亡、長期死亡ともに独立した危険因子とはならなかった。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Tateyama S, et al. Prognostic impact of atrial fibrillation in patients with acute myocardial infarction. Journal of Arrhythmia (in press)

2. 学会発表

第 77 回日本循環器学会学術集会(横浜)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし